

## 何が予定されているの？

東京都教育委員会はベネッセ・コーポレーションと協定を結び、11月27日(日)に全公立中学3年生を対象に英語スピーキングテスト(ESAT-J)を実施し、その結果を令和5年度都立高校入試から活用するとしています。このテストでは、イヤホンから流れる問題に、一人ひとりが答え、音声が録音され、解答はフィリピンで採点され、1月中旬に結果が返却されて、都立高校入試総合得点に20点満点で加算がされます。すでにこれまで3年間に渡り、その年度の中學3年生に対してプレテストが行われました。



## もちろん採点はちゃんとやってくださるのですよね？

都教委の担当の方は新聞記者からの質問に「ESAT-J の採点者は、ベネッセの責任において運営されているフィリピンの採点センターの常勤スタッフで、スピーキングテストの採点を行う専任であることを確認しています。採点者は ESAT-J に専従してもらいます。採点者は、ESAT-J の専門の研修を受けており、採点の「癖」や「ぶれ」は出ないようにしています。(中略) 採点品質を担保するノウハウに関する部分については答えられません。採点については、都教委が全て把握し、監督しています。安心して下さい。」とお答えになっています。ただ入試というものは、どうしても採点ミスが起こり得ます。そのために受験者は採点に関する開示請求ができるのですが、この ESAT-J に関してだけは、生徒に返却されるスコアレポート(得点、グレードと簡単なコメントが書いてある)以外はないとなっているのです。なぜでしょう？

## なぜ英語だけが調査書点がほぼ倍になるの？

ESAT-J 採点は100点満点で行われ、それが4点差ずつの6段階20点満点での換算点となって加点されるので、事実上英語だけが調査書点がほぼ倍となります。それって英語の方が国語、社会、数学、理科より2倍大切ということなのでしょうか？

それからその換算によって、ここだけ加点がいびつになっているのですが、なんでこんなふうにしたのでしょうか？

	スピーキングテストの得点	調査書 加点	得点	換算点
A	80点～100点 = (得点幅21点)	20点	100点⇒20点	35点差
B	65点～79点 = (同15点)	16点	65点⇒16点	
C	50点～64点 = (同15点)	12点		
D	35点～49点 = (同15点)	8点	80点⇒20点	1点差
E	1点～34点 = (同34点)	4点	79点⇒16点	
F	0点	0点		

## 不受験はどうなるの？

予備日での受験も可能ですが、最終的に受験していない生徒が必ず出ます。その生徒達は2月の英語学力検査(筆記試験)の得点から、所定の方法で「仮の ESAT-J 結果」つまり得点を算出するとしています。学力検査得点から ESAT-J 得点を算出できる根拠は？という疑問に、都教委は「具体的な相関関係のデータはまだ今持っておりません。」(5/27 都議会文教委員会)と答えています。欠けている得点を、特に根拠なく他から補って使ってよいということですか？入試ってそういうものでしたっけ？

## 受験校決定に影響はないのですよね？

 テスト結果は1月12日に知らされるようです。ところでこれまで受験生は中学校での三者面談等も経て、受験校をほぼ12月中に決めていましたが、そうなると、もしかして ESAT-J の得点によってはここから再度受験校を変更するかもしれないということ？先生からすると調査書の作成や完成が遅くなるということ？受験生の皆さん、先生方これで大丈夫ですか？

## 「似てるけど違う」テストを受けている子ども達がいるってホントですか？

現在都内では、素人目でも(いえ、専門家から見ても) ESAT-J とそっくりのベネッセの英語テスト GTEC Core を全校で実施している区市町村が9つあります(不実施42[6/6 調査時点])。今回のような形式のテストは事前に経験を積んだ方が確実に有利になりませんか？地域差なのだから仕方がないということ？

わからぬことだらけのこのテスト、本当に大丈夫なのですか？